

地域社会との緊密な連携を築く

地域と協力をし、子どもを支援するPTA活動

江南市立古知野西小学校PTA

1 はじめに

本校は江南市の西部に位置し、農地や住宅に囲まれている。平成8年に開通した県道一宮犬山線沿いに、マンションや飲食店が建築され、環境も大きく変わった。これに伴い児童数も増加したが、平成21年度をピークに減少傾向にある。

江南市教育委員会・丹葉地方教育事務協議会より委嘱を受け、平成26年度から3年間、研究主題「自分の考えを仲間に伝え、学び合う児童の育成」を掲げて実践研究を積み重ねた。主体的・対話的で深い学びを全教科で追究している。

また、コミュニティ・スクールの導入に向けて、平成27年度から2年間、その準備を進めてきた。地域とのつながりをより強め、地域とともにある学校づくりを本格的に進めている。



【江南市立古知野西小学校】

2 研究への取組

(1) 現状把握

本校区は児童数・保護者数の減少が緩やかに続いている。また、役員を選出する地区間においても、児童数・保護者数の極端な不均衡が生じてきたため、少ない保護者数の地区においては役員を何度も引き受けないと回っていかない現状である。

共稼ぎの世帯の増加により、PTA活動を第一優先として参加いただける家庭ばかりではなくなってきている。PTA活動のために仕事を休むことができない家庭も多い。

(2) 研究のねらい

① 組織の見直し

本校区には四つの役員選出地区があるが、極端に児童数・保護者数の減少した地区を他地区と合併し、3地区へと編制し直すことにより、何度も役員を引き受けることのないようにしたい。

また、PTA自体の組織も再編成することにより組織のスリム化を図る。役員自体の人数も減らしていく。同時にPTAの各活動そのも

のの見直しを図っていく。

② 地域との連携

組織のスリム化により、PTA活動への人員不足が生じてくる。それを補うために、コミュニティ・スクールによる働きかけで、地域と学校を結びつけていく活動を考案し、実践していく。

3 実践活動の概要

(1) 組織のスリム化

① 役員選出地区のスリム化

大規模集合住宅を含む役員選出地区では、児童数・保護者数が極端に減少する事態が出現してきた。一人が何回もPTA役員を引き受けなければならない状態になってきた。本校区では、四つの地区で役員ローテーションが組まれており、三つの地区による新しいローテーションを編制する必要が出てきた。

しかし、従来のローテーションを変更するにあたり、他地区の承諾を得ることは、段階をおって進めなくてはならなかった。児童数・保護者数の少ない地区のみでの懇談会を開催し、次に合併対象の地区を交えての懇談会、そして全地区での懇談会をもった。結果令和7年度から3地区のローテーションを完全実施することとなった。

本校のPTA組織は、四つの地区に合わせた四つの委員会組織で構成されている。三つの地区にすることにより委員会構成も新しく三つに編制し直すこととなった。この編制はローテーションの完全実施に先立って令和3年度より実施している。また、委員会を減らすとともに役員・委員の数も同時に減らし、組織のスリム化を進めた。

② PTA活動の見直し

PTA組織のスリム化と同時にPTA活動の見直しを図った。はじめに検討したのがPTA社会見学であった。大型バスを貸し切る費用も少なくなく、負担が大きい割に参加者が集まらない行事であった。江南市PTA連合会が社会見学を行事から削除したのを機会に、本校も社会見学を取り止めることとなった。

次に学校行事へのPTA支援を検討した。運動会の準備（テント立て・除草作業）として運動会前日にお手伝いをお願いしていたが、児童でも準備できる「かんたんテント」を使用することでPTAによるお手伝いを省くことができた。また、学校行事当日の来賓の接待（お茶出し）の支援もペットボトル飲料を利用することで省くことができた。PTA役員・委員も保護者の立場としてのみ学校行事に参加することができ、負担軽減につながった。

(2) 地域との連携（コミュニティ・スクール）

本コミュニティ・スクールは、古知野西小の子どもたちのために地域で協力できることを積極的に提案し、地域の教育力を学校に届ける活動

を進めている。学校にどのような協力ができるかアンケートを実施し、具体的な活動を把握し（人材バンクを作成）、地域の人材をボランティアとして学校と地域を結びつけている。組織構成は次の通りである。

- 〈総務部〉・コミュニティ・スクールだよりの発行
 - ・秋のふれあい活動の計画実施
- 〈推進部〉・子どもの登下校の安全確保（セーフティーネット会員募集）
 - ・ボランティア活動
- 〈創設部〉・新たなボランティア活動の掘り起こし

構成メンバーには、区長経験者・現PTA会長・PTA会長経験者・民生児童委員を含み、地域や学校の事情に通じている。ボランティアの募集に際しても、地域の回覧板を利用して校区全体に呼びかけることができる。そのおかげで、ボランティアとして協力していただける方には、本校に児童が通っていない地域の方が多い。

① 「まちたんけん」ボランティア

低学年のカリキュラムに「まちたんけん」がある。多くのコースを設定するにあたり、多くの引率者が必要である。担任教諭だけではとてもまかなえない。引率ボランティアをコミュニティ・スクールで募集し保護者を始め多くの地域の方の協力を得ている。地域に精通した方々なので、安全に子どもたちを引率していただいている。

② 環境美化ボランティア

環境美化ボランティアとして、学校行事の前に校庭の除草作業や秋の落ち葉収集など協力いただいている。右の写真は、コミュニティ・スクールのロゴを入れたベストを作成した折に、ベストのお披露目を兼ねて行った校庭清掃ボランティアの様子である。多くの方々に参加いただいた。



【校庭清掃の様子】

③ 読み聞かせボランティア

10年ほど前から、有志の方の呼びかけにより、子どもたちに本の読み聞かせをする活動が始まった。業前の10分間という限られた時間ではあるが、子どもたちは読み聞かせを楽しみにしている。また、ブックシアターや紙芝居の読み聞かせにも取り組んでいただいている。コロナ禍では昼放送を使って活動していただいている。



【読み聞かせの様子】

④ 登下校の見守りボランティア

平成19年度から地域の方に、ボランティアとして子どもの登下校の安全を見守っていただいている。また、PTA委員も会員となり、地域の方と協力して活動している。

日頃の活動に対して、学期に1回ずつ来校していただき感謝の気持ちを伝える機会を設けている。(1学期：1年生を迎える会に招待、2学期：給食交流会、3学期：ありがとう集会)



【登下校の様子】

⑤ ギガ・スクールボランティア

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ギガ・スクール構想が加速化した。一人一台のタブレット端末を使った授業展開が学校教育に期待されている。特に低学年の児童にとってはまずタブレットの扱いに慣れることからのスタートである。そこで、学習支援ボランティアとして、タブレット



【講習会の様子】

を使った授業に参加し、支援していただくことにした。ボランティアの募集をしたところ、24名の地域の方々を登録することができた。

江南市で支給されたタブレット(クロームブック)の操作の仕方について、夏休みに4回の講習会を開いた。ボランティアの方々に実際にタブレットを触っていただき、立ち上げ方やソフトの使い方について研鑽を深めていただいた。はじめてタブレットを操作した方もみえたが積極的に参加していただくことができ、4回とも講習会に出席いただいた方がほとんどであった。

次の段階として、10月中にタブレットを使った授業を参観していただいた。教室が密状態にならないよう配慮し、24名を4班に分け複数日に渡る参観授業を設定した。全学年の授業を設定したので、低・中・高学年によるタブレット利用の様子を見ていただくことができた。

12月より、実際にタブレットを使った授業を支援していただく計画になっている。特にタブレットに不慣れな低学年の授業を助けていただきたいと考えている。

4 おわりに

共働き家庭の増加など、時代の流れに沿ったPTA活動の在り方を考え直す時期が来ていると思われる。保護者が無理なく参加していただける活動へと変わっていくために、コミュニティ・スクールを通して、地域の教育力を学校へと結びつけていくことの有効性を実感することができた。